

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第9回 議事概要

日時	2024年3月26日(火) 13:30~18:00
場所	市役所5階 会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：泉、吉田、木村隼、木村大、清原、鈴木、安本、有賀 専門家：熊谷、長町、榎本、大橋、井上 地域事業者：郷田、阿部、湊、原田、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 前田、田中、平山、村上、上野

1. 3月社会実験実施概要

(1) カイキョー大噴水 (2) あかりの社会実験 (3) 緑地活用

長町委員、木村大委員、安本委員より資料に基づき説明の上、議論

(あかりの社会実験)

- 船や門司側からも見たが、改めて下関のウォーターフロントは魅力的に見えた。予算の都合もあり部分的な対応だったところもあるのかもしれないが、海響館のライトアップを含め十分な魅力となったと思う。常設になることを願っているし、そうなればランドマークとしての機能も果たせると思う。それによって市民が足を向ける場所になって欲しい。
- 初めて来られた方には、むしろこれが日常だと思うほど自然だったのではないかと。現状のままの状態では、リゾナーレに泊まれた方が夜に出歩くことは想定できないので、今回の実験のような照明は、「あって当たり前」と言えるようなものではないか。
- 海響館の外構照明、特に入口側については、リゾナーレの開業までに間に合わせることは目指すべきではないか。難しい場合には、緑地も含め、常設工事できるまで社会実験をやり続けることで魅力を生み出すことも考えられる。

(カイキョー大噴水)

- 国際航路への干渉や係船柱との併存可能性をはじめ、海上保安部や水先案内人など関係者での確認を行った結果、今回の実証について、問題がないことが確認された。
- 大噴水は大賛成だが、風向きによってどこまで海響館の建物側に来るかは懸念点としてあるため、今後の運用を精査していく必要がある。
- 海側からの視点では、観覧車の存在感を感じた。観覧車とカイキョー大噴水とが両方あることでの相乗効果は想定されるか？

→海上から見て観覧車の存在感は大きい。ただし、今のままではカラーリングも含めて難しい。もし観覧車を残すということになる場合には、アップデートが不可欠。照明の色彩の改善や、他のライトアップも含む全てのライトアップの連携など。経済的なものも含めてアップデートしていくシナリオを描けるかが重要。

観覧車自体よりも、足下の魅力が重要である。観覧車があることでA地区事業の魅力が削ぐことは望まない。

海峡部との接続も重要。観覧車が存在することで、そこを遮断してしまう懸念がある。ホテルをはじめ周辺の施設は目的性が高く、閉じた空間になり得る懸念も見据えた検討が必要。

- 噴水の大きさについてはどうか？

→もう少し大きい方が良いという意見もあったが、これ以上大きくなると一気にコストが上がることも想定される。現状の程度でよいのではないかと。

(緑地活用)

- 緑地についても、なぜ今までやってなかったのかと思うくらい良い雰囲気になっている。マリパークゾーンは昼間の利用中心の想定だったが、社会実験の様子を見ると夜も色々出来ると感じた
- 一番感動したのは高校生が3時間くらい佇んでくれたこと。あれが作り出したいシーンそのもの。施設がなくても空間はすでにあるので効果は出る。これはすぐにでもやったほうが良いと感じた。

(社会実験まとめ)

- あかりの実証に関しては、効果が実証されたと評価できる。海響館が明るくなったことで、夜間のランドマーク性も出てきた上、回遊も促進できた。
- 大噴水に関しては、整備に関して航路の関係などクリティカルな問題は生じないことは確認でき、また海上からの視点をはじめランドマーク性や回遊創出効果は確認されたところ。
- 一方で、風の影響による飛沫の飛散については、海響館やA地区などごく近隣への影響について、今後の運用協議の中で精査が必要。また、維持管理費に関する検討も必要がある。
- また、クルーズも非常に多くの申し込みがあり、海上でのアクティビティの可能性が確認された。また、海上からの景観に存在感があった観覧車に関しては、海峡との接続やA地区事業への影響も懸念されることから、A地区事業のプランを構想する中で検討を深める必要がある。
- 緑地活用に関しては、大規模な仕掛けをせずとも上質な空間を生み出すことで、夜でも市民の方と観光の方の両方が楽しめる可能性が見いだせた。

2. 交通・駐車場に関する検討

下関市交通対策課、市場流通課、観光施設課、榎本委員より資料に基づき説明の上、議論

- 臨時駐車場の実証とのことだが、アンケートの対象は唐戸市場駐車場までは不要か？
→臨時駐車場利用者向けと考えている。特に今回とりたいのは馬関街利用者の意向であり、その観点ではそれほど属性に差が出ないと想定されるため。
- 実証も踏まえ、将来的には駐車場に関する条例改正も視野に入れて検討すべき。実証の運用上、あまり細かい金額設定はできないかもしれないが、なかなかない機会なので、将来の上限値を見極めるようなイメージで設定する期間も作れると良いのではないか。
- こうした形で課を横断して調整して、一体で施策を実施していけると良い。効果検証等も横ぐしで進めていけると良いのではないか。

3. 令和7年秋に向けたロードマップ

木村委員より資料に基づき説明の上、議論

- 1年半おきで、3回くらいインパクトの波をつくっていくことを目指す。1回目のリゾートレ開業のタイミング。各所で実験的な活用が行われ、ハード整備は大噴水と護岸、モバイルファニチャーが実現できている。2回目の波は3年後、

パブリックスペースの充実と港湾緑地と海響館の外構計画の実現。最後 A 地区ができる頃には整備が一通り出来ている状態を目指す。

- さらに民間の動きも加えていけると良い。
- 商店街との連携も重要である。商店街でも、動きが始まっているので、連携していきたい。夜間景観ガイドラインでは商店街のドームのことも描かれており、商店街との協業の施策にもなり得る。
- 全体として、相当多岐にわたる検討と取組になるので、しっかり役割分担をして、会議の進め方自体もバージョンアップしていけると良いと思う。役割を持った人が関係者や関係課ともきっちり協議をした上で、このテーブルに示しているような流れ。

4. プロジェクト情報発信の状況（市報関係、TTT 実施状況も含めて）

5. 次年度社会実験の計画（モバイルファニチャー & 緑地活用）

安本委員（議題 4）、木村大委員及び鈴木委員（議題 5）より資料に基づき説明の上、一括して議論

- 占用申請に関してはどこにどんなものを置くのか、7 月くらいには協議をスタートしていきたい。
- 今年度は市民向けの発信が中心だったが、来年度は観光客に向けた情報発信も視野に入れては？
→準備は進めていけると良いが、中心はプロジェクトメンバーを増やす、関与する人を増やすことにおいた発信で引き続き良いと思う。
- TTT について、継続的な参加者が生まれ、コアのメンバーをつくっていくという効果は見えてきているが、裾野を広げていく面も考えられないか。
- 来年度は今来ている人たちにアイデア出してもらって、それをサポートしていくようなことを社会実験に組み込めないかと思っている。TTT にお金払ってくる人は能動的な人が多く、コミュニティを持っている人が多いので、そこから広がっていくことを考えても良いかもしれない。また、オンラインでの参加形態も検討していく。

6. ハードデザイン検討状況（サイン検討の進め方）

下関市都市計画課より資料に基づき説明の上、議論

- サインと言っても、観光に特化したものから交通誘導のサインまで幅が広いが、今のサインで下関の良さを取りこぼしているのは、歴史の重層感の表現。場所ごとの断片的な情報になっているのがもったいなく感じる。
- 調査自体は網羅的に進めながら、具体的に検討を進めていくのは歴史の部分。全体は膨大であり、書き込みの粒度も考えなければならないが、まずは見えている範囲でこういったものをこんな形態で取り上げていけないか、というのをいくつか書き出してみることはないか。

7. 新たな交通システムの実証調査（アンケート結果）について

下関市港湾局より資料に基づき説明の上、議論

- 今年度の結果を踏まえ、有償での実証した場合にどのような動きになるか、実証を重ねて検証していきたい。

→もっと仮説を絞り込んで実施する方法もあり得ると思われる。仮に観光体験を視野に、また、駐車場との連携など交通対策ともセットでの検討になる場合には、ぜひデザイン会議と一緒に議論していきたい

8. 実行委員会について

下関市エリアビジョン推進室より資料に基づき説明の上、議論

- 実証は基本的にはこのメンバーで積み上げる段階であり、市内企業（イベント会社）の委託は、あり得るとしても部分的な話。また、実証内容が「水上交通」となっているが、今日の議題も含め、デザイン会議で議論しているのは交通実証であり、それをこの資料で海上交通だけ絞るのは間違い。
- 事務局体制については、実情を踏まえて検討する必要があるが、駐車場の実証については早いタイミングでスタートする。

以上